

2024年9月27日 大玉トマト、ミニトマト品種見学会<オンライン> ご質問、回答一覧

ご質問	回答
大玉トマトで、秋冬にかけ収穫する作型ではどの品種が良さそうか？	かれん（栽培性よく、昨年収量が多かった）、有彩014（昨年秀品率がいい、どの年でも安定収量性がある）、NT0-TY21（暑い時期の耐裂果性が期待できる）が良さそうです。
ミニトマトで黄化葉巻病等の状況は品種差はあるか？	今年ミニトマト品種比較試験ハウスでは、1品種を除いて全て黄化葉巻耐病性品種となっており、耐病性品種は黄化葉巻病の発生は見られません。品種間差が確認できないため引き続き産地状況を確認していきます。唯一、耐病性品種でない「みわた」は、定植後に1株発生が見られました。発生株は早期処分、補植し、9月末現在に至るまで黄化葉巻病の発生は確認されていませんが、定期的な薬剤散布は行い防除は徹底しております。
大玉トマトで、夏場の高温に強いのは、どの品種が良さそうか？	販売品種に関しましては、栽培安定性として2品種かれん、りんか409が良さそうだと思います。また、番号品種に関しましては、MST-1331（着果性がいい）、72-BF4002（樹姿・樹勢がいい）が良さそうと考えます。
収穫後半でトマトの展示会はやるか？	栽培後半（年明け予定）に、トマト類の展示会を予定しております。その時には品種差による食味や収量などもご見学して頂けるかと思っております。品種比較試験のハウスだけでなく、他試験のトマトハウスの見学会も予定しているため、都度ご案内させていただきます。
ベミデタッチはコナジラミに対して耐性はつくか？	ベミデタッチは忌避剤となり、殺虫剤と作用も異なるため現在も抵抗性は見られていません。残効日数も限られているため、忌避効果を維持するには定期的な散布が必要となります。また、株にしっかりかかるように散布して頂く必要もあるため、コナジラミ発生前、株の小さい生育初期までの散布が良いかと思っております。
ミニトマトの単為結果品種の他品種と比べた高温着果性を知りたい	今年、弊社研究農場で栽培している単為結果性は「TYベにすすめ」のみとなりますが、他の品種と比べれば着果率は良い方ではあります。ただ、際立って着果率が良いという程でもありません。他品種に比べ樹勢が弱く、着果率に影響している事が考えられます。他品種よりも樹勢維持を意識した管理が必要になるかと思われます。
高温対策について、環境制御の他、培地を冷やす工夫はしているか？	まず最低限の対策として、ココバグに遮熱効果のある「タイベック」をしっかり展開しております。また、根張りを促すため、灌水量は極端に増やさず夏場でも遅くても14時頃には灌水を終えるようにしていました。夕方以降に水が培地に残ってしまうと、根張りが弱まる傾向にあるためです。他は、根張りに効くバイオスティミュラント資材などを活用しました。酸素供給剤である「フレッシュサンソ液剤」などを定植前の育苗期と、定植後に株元灌注を行っています。
それぞれの品種に対し、ハイスペック温室で栽培した場合の期待収量（反収）がわかれば知りたい	研究農場の昨年実績となりますが、プロファームによる統合環境制御ハウスで、ミニトマト、大玉トマトそれぞれ最も収量があった品種で以下となります。 ■ミニトマト（実生）7月末定植～6月末終了 株あたり約8kg、反収換算で約20～21トン ■大玉トマト（実生）7月末定植～6月末終了 株あたり約10kg、反収換算で約30トン 台木の選定や栽培品種品種、栽培環境、管理方法により、上記値は前後するかと思われます。